

クリームソクローバーを利用した美味しい米づくり

1 はじめに

クリームソクローバーを用いた美味しい米づくりに向けて、クリームソクローバーの栽培、鋤き込みおよび施肥管理法を開発しました。



2 秋の圃場準備とクリームソクローバーの播種

9月、クリームソクローバーの湿害回避のため、圃場内排水溝をつくり、10月上中旬に耕起・播種します。10aあたりの播種量は、3~4kgです。

3 鋤き込み時期は生育量を見て

鋤き込み時期は、4月上旬から5月上旬の間で、50cm×50cm角の生草重が500gになった時点を目安にします。鋤き込みにより、約2.5kg/10aの基肥分の窒素が供給されます(図1)。

なお、クリームソクローバーは2回に分けて直接鋤き込みます。鋤き込み後はクリームソクローバーの腐熟促進のため、すぐに入水せず10日以上畑状態とします。

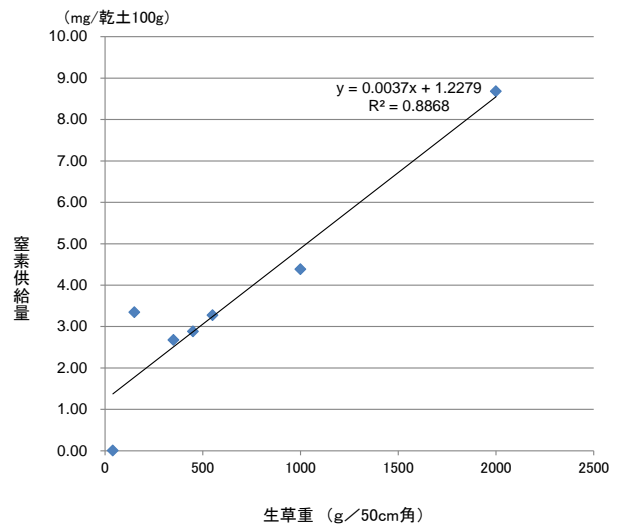


図1 クリームソクローバーの生草重と窒素供給量 (平成25年度)

4 基肥は施用せず、穂肥は生育を見て

移植時期は5月中旬~6月上旬とし、基本的に基肥は施用しません。しかし、鋤き込んだ生草重が200g以下と少ない場合には、基肥に有機質肥料を窒素成分で1.5kg/10a程度施用します。初期、土壌からのガスの発生が多い場合には、田干し(中干し)を数回行い、稲の生育の健全化を図ります。

生育中期は葉色が濃く、生育旺盛に推移します。穂肥施肥は、幼穂形成期の生育状況を見て、表1を目安に有機質肥料を用いて行います。葉色が濃い・草丈が長い場合は施肥しないでおきます。

表1 穂肥施肥が可能な生育状況と量の目安

葉色 (葉色板)	茎数 (本/m²)	草丈 (cm)	有機質肥料 (Nkg/10a)
4.5以下	450以下	75以下	3程度

(平成26年度)

5 収量・品質について

クリームソクローバー栽培鋤き込みは慣行と同等以上の収量・品質が得られます(表2)。

表2 鋤き込み量と収量・品質

生草重 (g/50cm角)	精玄米重 (kg/10a)	整粒 (%)	食味値
234	491	79.7	81
484	510	76.5	84
慣行栽培	491	75.1	72

(平成24年度)

6 技術の効果

本技術は、鋤き込みしたクリームソクローバーからの養分供給を利活用する「花あかり」などの生産拡大につながります。

(農試 有機環境部 有機農業研究G 野崎伸一、斉藤正志)